

## 市川市史編さん講演会

### 講演録 「日蓮が遺したものー近世・近代の信仰と文化ー」

安中尚史

ただいまご紹介いただきました安中でございます。よろしく申し上げます。司会の根岸さんからもお話がありましたように、父が宮久保高円寺の住職をしております。藤の花をご覧に市民の皆様が大勢、その時期になりますとお参りに来られています。今、ご紹介をいただいたときに、皆様のうなずいている様子を舞台の袖から拝見いたしましたして、多分、どちらかでお会いしているのかと存じます。

私は近代における日蓮宗の歴史を中心に研究をしておりますので、本日のお話は、それに関係した内容になります。皆様には、ふだんあまり耳にしないようなことが多いかと思えます。

これまで、地元でこのような機会がございませんでした。市川市が主催し市民の皆様の前でお話をさせていただくという、非常に良い機会をちょうだいいたしましたことを関係者の皆様にまずお礼を申し上げたいと思えます。

最近、私は外の方に目を向けるようになってきました。外というのは、海外のことでございます。皆様は驚かれるかとも思うのですけれども、日本仏教各宗派のお寺が外国にたくさんあります。

事情を詳しく聞いていただくと、「なるほど」と思っていたのですけれども、日本人の方たちが明治の初めのころからハワイやアメリカ大陸、特に西海岸の方ですけれども、移民として大勢が渡っております。最近、テレビでアメリカ日系人のことが連続ドラマになって放映されるとか、されたとかいう話を耳にしました。まさに、日本から海外に出稼ぎに行かれた方たちが、最初は帰ってくるつもりで、わずか数年間の予定でハワイやアメリカに渡ったのが、そこに居を構え、また、そこで知り合った日本人同士が結婚し、代々アメリカに住み続けていくという方たちが大勢いらっしゃいます。一時期ハワイは、日本人・日系人が人口の半分以上を占めていたというような時代もございました。現在でも、4分の1近くは日本人・日系人の方たちでハワイの人口が占められていると聞きます。

そうしますと、当然故郷で慣れ親しんできた宗教、いわゆる仏教が必要になってくるわけです。日本の仏教を求めて、日本の仏教の各宗派、お寺にリクエストが出されたり、また、日本の仏教各宗派のお寺、僧侶たちが自分たちの教えを広めるひ